



市内小学校で運動会を開催

5月28日

市内9つの小学校で運動会が開催されました。今年も新型コロナウイルス対策のため、参加者は保護者などとし、人数を制限したり競技時間を短縮したりして、開催されました。また、開催日前日の雷雨により、テントなどに被害が出た学校もありましたが、全校で開催となり、校庭では児童たちが力強く躍動していました。



※写真は騰波ノ江小学校



水泳指導研修会を開催 5月9日・16日

市内小中学校の水泳授業に当たる先生たちの指導力向上を図るため、下妻スポーツクラブ(田下)の温水プールを会場として、各校の体育主任などを対象とした研修会が実施されました。研修会では同クラブのコーチが講師となり、安全の確保や児童・生徒に指導する際の注意点などについて学びました。研修に参加した大形小の益子瑞花先生は「水に親しむ楽しさや喜びを味わえるように指導をしていきたいです。安全な指導を前提に、子供たちと水泳学習を頑張ります」と話していました。



プールでの研修の様子

市では、「市立小中学校プール共同利用計画」を策定し、水泳授業において民間施設も活用することとしています。同クラブのプールでは、6月から11月までの間、豊加美、宗道、大形小の児童の水泳授業(計29回)を予定しています。

温かい善意ありがとうございます



左から常総ひかり農業協同組合 上野下妻支店長、飯塚金融部長、堤組組合長、菊池市長、中山教育長

常総ひかり農業協同組合が「食農教材」を寄贈

5月16日、常総ひかり農業協同組合から、食農教育の補助教材本「農業とわたしたちの暮らし」が寄贈されました。この教材本は、食・環境と農業への理解を深めるきっかけとなることを目的に、「JAバンク食農教育応援事業」の一環として制作・寄贈されたものです。

同組合の堤組組合長は「この教材を使って、子供たちに農業と食への理解を深めてもらいたいです」と話しました。なお、この本は、市内の小学5年生の教材として配布します。



下妻の米

下妻市は水と土地と気候に恵まれ、茨城県内でも有数の米どころです。市内で生産される「コシヒカリ」は、消費者の方からもおいしいと好評価を得ています。現在は広く生産されるようになった、もちもち感が特長の「ミルキークイーン」は下妻発祥と言われ、米どころ下妻を代表する品種となっています。

4月から5月、今年も田植えの時期となり、代掻きの済んだ田んぼでは、田植え機による田植えが始まっています。カメラを向けると「市報に載せんのが? だめだ、だめだ」と言ってお手振る農家の男性の日に焼けた顔に笑顔が光っていました。リズムカルな作動音と共に田植え機が進んでいくと、稲の列が実直な農家の気持ちを表すように、水田にまっすぐに延びてきます。豊稔の秋に願いを込めて。下妻の米は育てられています。

一般的な米の栽培カレンダー



宗道小学校で田植え体験授業を実施 5月6日

宗道小学校の5年生児童(2クラス46人)が、同小西側の水田で田植え体験を行いました。この行事は、同校が水田地帯にあるものの、田植えの体験をしたことがない児童が多いことから、地域への理解や農業への関心を深めることを目的に企画されたものです。毎年、常総ひかり農業協同組合や同校PTA本部役員などが協力して実施しており、児童たちは泥まみれになりながら、丁寧に苗を植え付けていました。



田植えをする宗道小児童